

授業科目等の概要

(医歯薬専門課程 視能訓練士学科午前部) 令和6年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	実務教員による授業
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			コンピュータ演習	ワードの基本的な操作を身に付け文章作成力を身につける。	1前後	60	4	○			○		○			
○			眼科基礎理数	視能訓練士として必要な基礎理数能力を身につける。	1前	30	2	○			○		○			
○			統計学	視能訓練士として必要となる統計の基本を理解し医学実務上必要な分析力を身につける。	2前	30	2	○			○			○		
○			コミュニケーション技法	視能訓練士として、社会人としての基礎の能力である「読む・書く・聞く・話す」能力を取得する事で、主体性とコミュニケーション能力の向上させる。	1前	30	2	○			○			○		○
○			倫理学	医師をはじめとする医療従事者が患者様と一般市民における医療と倫理のあり方を論ずることができる。	1後	30	2	○			○			○		
○			医学英語	英語で眼科専門書を読む長文読解力を身につけ、斜視及び眼疾患について理解を深める。	1後	30	2	○			○			○		○
○			心理学Ⅰ	幼児期から高齢期に至るまで「身体」「心理」がどのように発達していくかを学ぶ事で、相手の状況に合わせた適切な対応を身につける。	1後	30	2	○			○			○		○
○			心理学Ⅱ	心理学Ⅰで学んだ発達段階における心理に加え、視能訓練士として外来業務を行う際に必要となる患者の臨床心理を学び対応力を身につける。	2後	30	2	○			○			○		○
○			人体の構造と機能Ⅰ	人体を構成する器官の機能と構造について理解する。人体を構成するそれぞれの臓器がどのような機能を営んでいるかを理解する。	1前	30	2	○			○			○		
○			人体の構造と機能Ⅱ	視能訓練士として必要な内科学の基礎知識(症候、検査、治療等)について理解する	3後	15	1	○			○			○		

○		ロービジョン 医学	視覚障がいを持つ患者さんに、見える感動を提供できるロービジョンケアを実施できるよう、知識とスキルを身につける。	2 後	15	1	○				○			○			○
○		視能矯正学Ⅰ	視能矯正の枠組みと理論を理解する。	1 前	30	2	○				○			○			○
○		視能矯正学Ⅱ	視能矯正の枠組みと理論を理解し、系統的な視能矯正を構築できる。	2 後	30	2	○				○			○			○
○		視能矯正学Ⅲ	1年次で学んだ視能矯正学Ⅰ・Ⅱの知識を発展させ、斜視・弱視の種類を理解しそれぞれの視能矯正方法を身につける。	3 後	30	2	○				○			○			○
○		生理光学Ⅰ	眼球をひとつの光学系としてとらえ、その仕組み・調節・屈折異常について理解する。	1 前	30	2	○				○			○			○
○		生理光学Ⅱ	生理光学Ⅰで学んだ内容を発展させ、各種疾患や患者状況による光学的変化を理解する。	3 前	15	1	○				○			○			○
○		眼科薬理学Ⅰ	眼科領域における点眼薬を中心とした薬剤の薬理作用、注意点を学び、疾患別の各薬剤の使用目的、使い方を正しく理解する。	2 前	30	2	○				○			○			○
○		眼科薬理学Ⅱ	眼科領域における点眼薬を中心とした薬剤の薬理作用、注意すべき点について、疾患別に使用目的・使用法を正しく理解する。	3 後	15	1	○				○			○			○
○		視能検査学Ⅰ	両眼視機能検査・光覚検査・色覚検査・視野検査についての対象・検査法・評価法を身につける。	2 前	30	2	○				○			○			○
○		視能検査学Ⅱ	視能訓練士業務での問診にて患者の状況を正しく把握し、必要な検査を考え提案する力を身につける。	3 前	15	1	○				○			○			○
○		視覚障がい者 リハビリテー ション	視覚障がい者の現況を理解する。見えない世界を知り、視覚障害者に対する正しい理解と対等な人間観を身につける。	2 後	15	1	○				○			○			○
○		生理光学実習 Ⅰ	眼科における様々な光学的検査を正しく行うための基礎知識と技術を身につける。	1 後	60	2					○	○		○			○
○		生理光学実習 Ⅱ	生理光学実習Ⅰでの内容を発展させ、屈折異常の原理を理解し、正確な屈折矯正を行う技術を身につける。	2 前	60	2					○	○		○	○		○
○		生理光学実習 Ⅲ	生理光学実習Ⅱで学んだ屈折矯正を発展させ、屈折検査の結果から眼鏡やコンタクトレンズの度数選択に必要な知識・技術を身につける。	2 後	60	2					○	○		○	○		○

○		臨地実習Ⅱ	患者様へ対応することで視能訓練士として必要なスキルが何かを理解し、これまでに学んだ知識と技術をより確かなものにする。	3前	320	8				○	○	○	○	○
○		臨地実習Ⅲ	患者様へ対応することで視能訓練士として必要なスキルが何かを理解し、これまでに学んだ知識と技術をより確かなものにする。	3後	280	7				○	○	○	○	○
○		プロ養成講座	視能訓練士としての社会的役割を理解し、自身の将来像について考える事で、卒業するまでの行動目標を明確にする。	1前	30	2	○			○	○			○
○		対人援助講座	乳幼児の実際について理解し、乳幼児への接し方や関わり方、適切なコミュニケーションのとり方を学び、実践する技術を身につける。	1前	60	4	○			○			○	○
○		卒業研究Ⅰ	問題の発見から解決までに必要な手順を理解し、研究をするために必要な情報の収集・生理・分析をどのように行うかを学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	○
○		卒業研究Ⅱ	自身が選択した研究課題に対して、他者に効率よく伝える手法を学び、問題解決能力を向上させる。	2後	60	4	○			○			○	○
○		視能訓練士総合講座	学内で学んだ様々な知識や技術を利用し、ひとつの症例に関して総合的な選択、判断が行える方法を身につける。	3後	60	4	○			○			○	○
○		導入教育Ⅰ	視能訓練士の将来像を明確にし、求められる役割を知る。3年間で学ぶことを理解する。	1前	15	1	○			○			○	
○		導入教育Ⅱ	視能訓練士の将来像を明確にし、求められる役割を知る。3年間で学ぶことを理解する。	1前	15	1	○			○			○	
○		導入教育Ⅲ	視能訓練士の将来像を明確にし、求められる役割を知る。3年間で学ぶことを理解する。	2前	30	2	○			○			○	
○		国際教育	国際的な感性を身につけることで、相手を理解する気持ちや自分の事を良く知り、主張できる力を身につける。	1後	15	1	○			○			○	
合計					63	科目	2530	単位時間(126	単位)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学年毎に必修単位数を修得したものは進級となる。卒業時まで全科目を履修し(2530時間、126単位)、学校長が適当と認めた者は卒業となる。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週